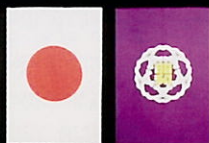


令和7年度 卒業式



SHOWA GAKUIN
SINCE 1940

SHOWA GAKUIN

昭和学院中学校・高等学校

昭和学院 広報 第51号 2026.3.19 [木] 発行

〒272-0823 千葉県市川市東菅野2-17-1

TEL 047-323-4171~5 FAX 047-326-5310

<https://www.showa-gkn.ed.jp/js/>



▲総代 初根鈴乃さん

さんに卒業証書が渡された。続いて、学院賞・知事賞・私学協会賞・私学連合会賞の授与が行われた。また、部活動等で優秀な成績を取った生徒には各賞が授与された。

山本徹理事長、山本良和校長、奨学会林尚行会長より、卒業生の門出を祝し、温かな励ましの式辞をいただいた。在校生代表の福永絢音さんによる送辞では、卒業生への深い感謝と敬意、そして昭和学院の伝統を受け継いでいく決意が述べられた。これを受け、卒業生代表の山口尚之さんが昭和学院で過ごした6年間の思いを言葉にした。放送部部員として各行事を裏方から支えてきた経験をもとに、仲間の努力や苦勞への深い思いを込めて語った。その言葉は会場に静かな感動を広げた。

卒業の歌に先立ち、指揮を務めた馬場翔海さんからの保護者へのメッセージでは、様々な経験をして卒業していくこと、これからの



▲答辞 山口尚之さん

決意、そして感謝の気持ちが述べられた。卒業の歌として選ばれたのは、学年全員で決めたRADWIMPSの『正解』である。岡ゆず季さんのピアノ前奏が響くと会場の空気が引き締め、歌声とともに卒業生の思いがあふれ出した。特に、曲のサビにさしかかると、思いが込み上げ

たのか、多くの生徒が涙ぐむ様子が見られた。そして、最後の歌詞では生徒の心が一つになっていた。

閉式後、退場していく生徒たちの背中には、未来へ踏み出す力強さがあった。各教室で行われた最後のホームルームでは、生徒から先生へ、先生から生徒へそれぞれの思いが伝えられた。学校との別れ、教員や友人との別れを惜しむ姿は、これまでの3年間、あるいは6年間にわたって築かれた豊かな関わりの深さを物語っていた。

卒業の日を迎えた生徒たちの歩みを振り返ると、3年間には数多くの学びと成長があった。入学直後のフレッシュマンキャンプでは、まだ幼さの残る表情の中で緊張を抱えつつも、班活動やレクリエーションを通して仲間との絆を深めていった。その繋がりは、その後の学校生活を支え続ける大きな力となった。2年生では、意見を交わしながら企画を形にした桜和祭、慣れない体験に胸を躍らせた修学旅行などの行事を通して、挑戦する力と協働する姿勢が育まれた。行事を終えた生徒たちの表情には、達成感と自信がしっかりと刻まれていた。3年生になり、受験や進路選択という大きな壁に向き合うと同時に、最終学年ならではの団結の力が多くの場面で見られた。特にスポーツ大会では、大きな声で仲間を励まし合いながら全力で競技に取り組む姿が輝いていた。結果以上に一人ひとりが真剣に取り組む姿勢が何よりも素晴らしいものであった。

学年目標「一意専心」は、他のことに心を奪われず、目標へまっすぐに心を集中させるという意味をもつ。この言葉を胸に、自ら選んだ未来へ力強く進んでいってほしいと願うばかりである。



▲最後のクラス写真



探究フェスティバル



1月31日(土)に「探究フェスティバル」を開催した。中学校・高等学校の「総合的な学習の時間・総合的な探究の時間」や高2・3GAコース「マイゼミ」での1年間の成果を、ポスターやスライド、作品展示、実演など多様な形式で発表した。今年度より生徒実行委員が発足。他校10校からも63チーム132名の中高生が参加し、32名のコメンテーターや保護者、一般観覧者を迎える大規模なイベントとなった。

生徒実行委員 中1から高2の有志で結成。探究の意義やフェスのあり方を生徒の視点から議論した。他校への広報、中高一貫校としての研究交流、学校の壁を越えた学びをデザインする設計を軸に活動。当日の運営のみならず、1人の探究者として自身の発表にも力を注いだ。



高1 TAコース 北海道の課題解決をテーマに探究を重ねてきた。校内フェスティバルを経て、データ分析や現地取材成果をさらに精査・深化させた。この経験をもとに挑んだ外部主催の未来探究祭では、2チームがファイナルステージに進出し、それぞれ金賞とJTBツーリズムビジネスカレッジ賞を受賞した。

高2 TAコース ジャンルを絞らず、各々が興味関心を持つテーマを深掘りした。探究を通じて自己の関心を明確にするとともに、自身の進路と向き合う貴重な時間となった。得られた知見を、今後の進路選択へ主体的につなげていくことを期待する。



SAコース 細胞生物学分野を新設し、全9領域の研究成果をポスター発表した。大学生等の専門家と意見交換を行い、各自のテーマを深めて次の一步を踏み出した。座談会での具体的な助言は、生徒の探究意欲を一段と高める機会となった。

高校 IAコース IAコースでは、1年生と2年生の学年の壁を越えてグループを作り、日本の課題から世界規模の課題まで広範囲から自分たちの切り口で探究を進めていった。また、3年生はプレゼンテーションの司会進行をスムーズに運営した。ポスター発表では、2学年が支え合いながら、さらに多くの発見を見つけることとなった。



中1 4~5人のグループで「困っている人を助ける企画」を立案した。初めての参加に戸惑いながらも、対話を重ねてポスター作成や発表準備に意欲的に取り組んだ。このプロセスを通じて、生徒一人ひとりの確かな成長が確認できた。

中2 IA・AA・GAコースは9カ月間の「コーポレートアクセス」の成果を発表。企業の新入社員として未来を良くする斬新なアイデアを披露し、校外からも高く評価された。来年度はさらに探究を深化できるよう、一層の研鑽を積みたい。



中3 「スモールスタート」プログラムを通じ、同世代の「あるある」を起点に社会を豊かにする新サービスを企画。昨年度の経験を生かし、全グループが独自の視点を提案した。高校進学後も、中学で培った力を糧に各自の関心を深めていくことを期待する。



高1 桜美林大学「ディスカバ！」プログラムに半年間取り組み、仲間と一つのテーマを深掘りした。重なり合う対話が、確かな分析と発表へと実を結んだ。他者と高め合う喜びや社会を俯瞰する視点を得た日々は、次年度の学びの礎となるだろう。

高2 AA・GAコースは全13ゼミに分かれ個人探究を行い、探究サイクルを回した。進路の具体化も目的の一つであり、思考・行動した経験や教員との対話が、次年度の活動や進路選択における前向きな活力となることを期待している。

高3 GAコースは、2年次から継続した「マイゼミ」の集大成として臨んだ。入試期間と重なり当日は掲示発表が中心となったが、多様な研究の在り方を最上級生らしく示す発表会となった。



高2 修学旅行 [TA・AA・GA・SA]

2月12日(木)~15日(日)の4日間、高校2年生のSAコースは種子島・屋久島、TA・AA・GAコースは沖縄への修学旅行を実施した。今回の修学旅行は探究的な学びを深める実践の場として位置付け、現地での学びを通して進路や将来を考える機会の側面も目的として行った。



▲ジャングリアにて(沖縄)

SAコースは、種子島と屋久島を訪れ、自然と科学の最前線に触れた。ロケット打ち上げの拠点である種子島宇宙センターや、圧倒的な存在感を放つ屋久杉に、生徒たちは驚きと感動を覚え、次々と問いを発しながら理解を深めていった。残雪の山道でのトレッキング、マングローブや磯での生物観察、満天の星空の観察など、自然



▲種子島宇宙センターにて(種子島・屋久島)

の厳しさと壮大さを実感する貴重な体験となった。一方沖縄方面は、事前学習をもとに歴史・文化・平和・自然・産業など多様な視点からテーマや問いを設定し、現地での体験や見学を通してその問いを確かめ、学びを深め

ていった。普段はあまり関わることのない生徒同士が自然と交流する姿が多く見られ、人とつながる喜びを実感する良い機会となった。

また事前にクラスで行先を設定した観光地を訪れ、晴天のもと、自然や文化に触れる貴重な時間を過ごした。世界遺産にも登録され、琉球王国の歴史を象徴する文化遺産である「首里城公園」を訪れた生徒たちは、焼失と復元を繰り返してきた首里城の歴史の説明に熱心に耳を傾けていた。

世界最大級の水槽を誇る「美ら海水族館」での生徒たちの様子からは、海洋生物の多様性を体感しながら学びを深める姿が見られた。また、ジンベエザメやナンヨウマンタがゆったりと泳ぐ迫力ある光景には思わず足を止め、ガラス越しに見入っていた。



▲航空機の整備工場見学



▲沖縄の食文化体験

今回の修学旅行は両方面とも、様々な体験や人との出会いや交流を通して、学びが広がり、将来の進路選択に繋がる機会となった。今後も自ら問いを立て、探究的な学びを深めてもらいたい。

中3 オーストラリア語学研修



▲ドリームワールドにて

2月14日(土)から22日(日)までの9日間、中学3年生131名がオーストラリアでの語学研修に参加した。本プログラムの目的は、英語力の向上、異文化理解、そして親元を離れた自立した生活の実践である。14日(土)の20時に日本を出発した一行は、翌朝ブリスベン空港



▲小学生の折り紙体験

に無事到着した。

現地到着後は、各校独自の研修プログラムに参加した。今回研修に参加した現地校は、Hillcrest Christian College(HCC)、Brisbane Christian College(BCC)、St Paul's School(PS)、Ipswich Grammar

School(IGS)、West Moreton Anglican College(WMAC)の5校である。各校で行われた授業はすべて英語だった。

当初はネイティブのスピードに圧倒され、消極的になる場面も見られたが、日が経つにつれて身振り手振りを交え

て懸命に伝えようとする姿勢が芽生え、最終的には現地校の先生や生徒と笑顔で語り合う姿が見られた。



▲モーニングティー

研修の合間に訪れた「ドリームワールド」では、様々なアトラクションを体験した。動物園も併設されており、コアラとの記念撮影に目を輝かせる生徒たちの姿も見られた。お土産選びでは、限られた時間の中で家族や友人の顔を思い浮かべながら買い物を楽しむなど、異国のレジャーを存分に満喫した。

研修の核となるホームステイでは、初対面こそ緊張に包まれていたものの、放課後や週末を共に過ごす中で、生徒たちはオーストラリアの生活習慣に溶け込んでいった。最終日の別れの朝、涙を流しながら再会を誓い合う姿は、彼らが単なる「ゲスト」ではなく「家族」として受け入れられた証であった。

今回の研修で得た最大の成果は、慣れない環境への適応力と、国境を越えた「一生モノの友情」という財産だろう。この貴重な経験を大きな糧とし、高校生活をより充実したものにしてほしい。

中2

キャリア教育



キャリア教育の一環として、2月13日(金)に企業訪問を実施した。生徒は10名程度のグループに分かれ、事前に企業研究レポートを作成し、企業理念や事業内容を丁寧に調査したうえで、所在地や交通経路も自ら調べ、当日の行程を計画した。当日は教員



▲企業訪問(JASRAC)

の引率を伴わず、入館手続きや受付対応も含め、訪問のすべてを自分たちの力で行った。訪問に際しては、服装や言葉遣い、あいさつなどの基本的なマナーについても改めて学び、事前指導で確認した内容を実践の中で確かめる機会となった。各企業では業務内容の説明や施設見学を通して理解を深め、準備した質問を担当者に直接伺うことで、働くことの意義や責任、社会とのつながりについて具体的に考えることができた。なお、訪問後には感謝の意を込めてお礼状を作成し、送付した。今回の経験は、生徒にとって将来を見据える貴重な学びの場となり、

▲企業訪問(スパイスファクトリー)

主体性と自覚を育む機会となった。

中1

卒業生のお話を聞く会



▲卒業生のみなさん

2月21日(土)本校第3アリーナにて、キャリア教育の一環となる中学1年生を対象とした「卒業生のお話を聞く会」を実施した。

会の目的は、生徒が勤労観・職業観を育むことであり、企画・運営は各クラスの実行委員が中心となって行った。講師には昭和学院中学校・高校を卒業し、現在は小学校教諭・公務員・映像書籍宣伝プロモーションとして活躍する3名をお招きし、仕事のやりがいや成長につながった経験、中学時代に大切にしてほしいことなどを語っていただいた。「中学校生活の中で“自分の好き”を見つけよう」「信頼できる友人を大切に」

という言葉は生徒の心に強く残った様子である。生徒たちは真剣に耳を傾け、積極的に質問し、温かい拍手を送るなど、有意義な会となった。今後も将来を主体的に考え、自己実現に向け努力してほしい。



▲盛り上がった質問コーナー

中1・中2 ビブリアバトル



▲チャンプ:吉野由梨さん

2月18日(水)、中学1・2年生合同のビブリアバトルが開催された。「本を通して他者に思いを伝える表現力や、他者の話に興味を持って聞く力を養成する」ことをテーマとし、各クラスの代表者が伊藤記念ホールで熱のこもったプレゼンテーションを繰り広げた。1の1渡邊夏月『少女ポリアンナ』、1の2久木原紳吾『あんぱんまん』、1の3岩崎美『電池が切れるまで』、1の4小塚瑠美『少女地獄』、1の5羽場木々音『本好きの下剋上』、1の6佐井愛奈『都道府県の持ちかた』、2の1井原羽葉『変な



▲準チャンプ:井原羽葉さん

地図』、2の2柳澤凜太『ケーキの切れない非行少年たち』、2の3吉野由梨『十字屋敷のピエロ』、2の4石井遥香『幸せな家族 そしてそのころはやった唄』、2の5諸橋果怜『3分間サバイバル』が紹介された。

審査の結果、準チャンプに井原さん、チャンプに吉野さんが選ばれた。運営委員の生徒が司会やタイムキーパーなどの役割を担い、主体的に運営した本行事は、互いの発表に耳を傾けながら、本を通じて思いを伝え合う経験を深める機会となった。



▲代表者・運営委員

日本書道文化協会主催 書家派遣事業



2月2日(月)3.4限に、書道I 選択者 (I.A.A.A)・書道研究部を対象に、鹿倉碩齋先生による特別授業が行われた。

生徒一人ひとりに手本を書いてくださった場面では、鹿倉先生の筆遣いを見逃さない

▲書表現について

ように真剣な眼差しで見つめる生徒の姿が印象的であった。鹿倉先生による「昭和」の模範揮毫では、「昭」の一画目で見られた墨の飛沫に歓声が上がリ、力強く、躍動感に満ち溢れた筆の動きに、生徒たちは心を揺さぶられていたようだ。

今回の特別授業を通して、生徒・教職員一同、「書」に感動を覚え、また、新たな「書」の魅力に気づくことができた。



▲鹿倉先生の模範揮毫



▲授業後、創作作品「昭和」を持って

2026 新生徒会



▲新生徒会役員のみなさん

～新役員の意気込み～

会長：福永 絢音さん[高2] 笑顔あふれる昭和学院を作り上げる朝やかな生徒会として頑張ります！活動の透明化に向けて、様々な準備を進めています。Gmailも確認してください！

副会長：一寶 穂歌さん[高2] 信頼を背負い、結果と仕組みを残す生徒会をつくります。

副会長：桑田 慎也さん[高1] 親近感ある生徒会になるように頑張ります。

書記：小澤 誠也さん[高2] わかりやすく意見が届きやすい生徒会を目指し、精一杯頑張ります。

書記：菊地 由衣さん[高1] 会議の内容や全体への指示をわかりやすく伝えられるように頑張ります。

会計：島根 琴羽さん[高2] 皆さんの学校生活が楽しく豊かなものになるように精一杯頑張ります。

会計：鈴木 莉央さん[高1] 昭和学院をより一層盛り上げて盛り上げて信頼と実績を積んでいきたいと思ひます。

会計監査：神崎 遼馬さん[高2] 皆さんに生徒会をより身近に感じてもらえるよう頑張ります。

会計監査：景山 楓さん[高1] 学校が変わったと思われるように精一杯取り組んでいきます。

昨年11月に生徒会役員選挙が行われ、新たに9名が任命された。旧生徒会の活動を受け継ぎ、2学期末には各委員会の要望を整理し、3学期と次年度に向けた活動を始めている。

書き初め展

会期：1月31日[土]～2月7日[土]



中学校 三年
千頭 俊哉さん



高等学校 二年
荻野 琴葉さん

校長賞



表彰

令和7年度の大会で優秀な成績を収め、1・2学期に掲載できなかった方々の紹介

第51回全日本バトントワーリング大会

関東支部大会

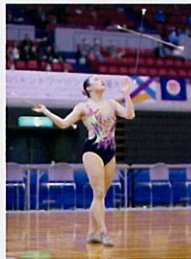
2026.1.31[土]、2.1[日]
於/大田区総合体育館

スリーバトン女子U18 第3位

トゥーバトン女子U18 第4位

両演技共、第51回全日本バトントワーリング選手権大会に推薦

落合 舞桜さん[高3]



令和7年度

日本カヌースラロームジュニア選手権大会

2025 カヌースラロームジャパンカップ

キョクヨーシリーズ第3戦

2025.8.2[土]～3[日]

於/岩手県奥州市 奥州いさわかヌー競技場

スラローム男子C1 第1位

永石 雄大さん[高1]



U-15 ジュニアセレクトカップ

ハンドボール大会

2025.12.25[木]～29[月]

於/長野県上田市自然運動公園総合体育館

関東第2位 (全国大会出場)

藍 あまねさん[中3]



第23回和洋女子大学競書大会

2025.11.23[日] 於/和洋学園講堂

穂本 華奈さん[高3] 昭和学院中学高等学校
審査員奨励賞 優秀団体賞



大東文化大学主催 第66回全国書道展

2025.11.30[日]

於/大東文化大学 板橋校舎



日暮 美来さん[高3]

(写真右)

大東書道大賞

昭和学院中学高等学校

優秀団体賞

プラネタリウム リニューアル

本校のプラネタリウムが、今年1月に全面リニューアルされた。光学式プラネタリウム「イーサリオス」を中心に、全天300万個の星を映し出し、天の川も細やかに再現している。双眼鏡を用いれば、星の帯が無数の恒星の集まりであることが実感でき、一つ一つの星の粒まで確認できる。さらに、恒星や惑星の動きを視覚的に確かめることができ、天体の運行を分かやすく理解できる。校庭から見た風景をドーム内に再現する機能も備え、実際の観測と結び付けた学習が可能である。教員を対象とした見学会では、投映された星空の美しさに驚きの声が上がった。今後は、生徒が体験する機会を設け、授業や課外活動の中で活用されることが期待される。



◀ドーム内に再現された校庭からの風景



▲300万個の星空と星座の投影

春の全国大会 出場部紹介

高校 新体操部

塩屋 恵美子先生

第41回 全国高等学校新体操選抜大会

於/福井県 セーレン・ドリームアリーナ



3/20(金)
~22(日)

個人



梅澤 芽咲さん[高2] 中村 明里さん[高2]

高校 女子ハンドボール部



第49回

全国高等学校ハンドボール選抜大会

佐藤 奏吉先生

3/24(火)~29(日)

於/大分県大分市
クラスス武道スポーツセンター他

吹奏楽部

牧野 宏哲先生

第38回

全日本高等学校選抜吹奏楽大会

3/21(土)~22(日)

於/静岡県
アクロシティ浜松 大ホール



奨学会だより

本年度の活動を振り返って

本年度も奨学会の活動にご支援・ご協力いただき、本当にありがとうございました。本年度は奨学会改革スタートの年でした。部を再編し、試行錯誤でそれぞれの担務を遂行しました。山本理事長、山本校長はじめ学校の皆様のご協力なくして前には進みませんでした。懇親会を交流会に衣替えてカジュアルにし、好評でした。制服リユースはいよいよ本格稼働しました。桜和祭は絵馬プロジェク

常任理事会

第3学期の常任理事会が2月7日(土)に開催されました。まず、会長より先日行った役員アンケートの概況報告があり、概ね活動が評価されたことが伝えられました。各部の活動報告では分担の見直し、新規の活動の改善点、各部で話し合われた要望などが出され、次年度に向けて活発な議論となりました。また、引継ぎ委員会を発足し、次年度の人事がスムーズにいくように準備を進めるとともに、新た

各部より

総務広報部 本年度より、総務に広報が加わり、総務広報部として活動いたしました。ホテルフランクスにて開催した交流会は、カジュアルな雰囲気の中、終始和やかな会となり、役員同士の親睦も深まりました。また、学院広報のお手伝いや桜和祭での絵馬企画の実施と神社奉納、文化講演会や千葉県私学振興大会への参加など、幅広く取り組みました。皆様の暖かいご協力に心より感謝申し上げます。

学校生活支援部 本年度の活動は、制服リユース販売会、桜和祭での絵馬作りのお手伝い、私学振興大会の参加です。多くの方々にご参加、ご協力いただき、心より感謝申し上げます。

トに初めて取り組みました。文化講演会は私学振興大会と同日になったにも関わらず、多くの皆様のお力添えで中身の濃いイベントになりました。部活の応援に今年度も力を入れました。

試行錯誤を踏まえ、新年度は新たな体制で奨学会のさらなる飛躍の年になればと考えています。1年間、本当にありがとうございました。



会長 林 尚行

に提案があり、臨時総会に諮ることも検討されました。最後に卒業対策委員会から活動報告と学校への感謝の言葉が述べられました。今年度は奨学会の新しい運営体制として活動を進めてきましたが、多くの取り組みに部の垣根を越えて協力し、奨学会の結束を強めた一年でした。



▲卒業学年の理事の皆さまを囲んで

行事応援部 本年度の活動は桜和祭のお手伝い、文化講演会及び私学振興大会の参加、各部活動の応援でした。活動にご協力いただいた皆様1年間本当にありがとうございました。来年度も各部活動を応援していきながらもチーム昭和として奨学会全体をより良い会にしていきたいと思っております。

文化教養イベント部 本年度は「文化教養イベント部」と名称を変え活動を行ってまいりました。メインともいえる10月4日(土)に伊藤記念館ホールにて開催した文化講演会は、大成功で終わることができました(3月末まで動画で配信中)。1年間、本当にありがとうございました。今後も様々なイベントを企画してまいります。

主な合格状況

[3月10日現在]

四年制大学

〈国公立大学〉

東京大学	1	専修大	20	千葉工業大	60
東京科学大学	1	大東文化大	2	千葉商科大	8
北海道大学	1	東海大	5	中央学院大	2
東京外国語大学	1	亜細亜大	9	中京大	1
千葉大学	4	帝京大	10	帝京科学大	11
茨城大学	1	国士館大	35	帝京平成大	18
岡山大学	1	工学院大	2	桐蔭横浜大	1
群馬大学	1	東京都市大	8	東京有明医療大	4
高根大学	1	武蔵野大	23	東京医科大	1
会津大学	2	神田外語大	11	東京医療保健大	13
釧路公立大学	1	文教大	8	東京音楽大	2
公立鳥取環境大学	1	横浜薬科大	1	東京家政大	1
静岡県立大学	1	大妻女子大	11	東京家政学院大	3
諏訪東京理科大学	1	共立女子大	6	東京経済大	3
高崎経済大学	1	実立女子大	1	東京工科大	6
千葉県立保健医療大学	2	昭和女子大	8	東京工芸大	7
横浜市立大学	1	聖心女子大	1	東京国際大	4
		植草学園大	1	東京情報大	7
		江戸川大	1	東京女子体育大	5

〈私立大学〉

早稲田大	3	桜美林大	11	東京聖栄大	1
慶應義塾大	4	開智国際大	2	東京未来大	2
上智大	3	神奈川大	6	東都大	2
東京理科大	3	神奈川工科大	11	東洋学園大	2
国際基督教大	1	金沢工業大	1	常盤大	1
明治大	12	関西医科大学	5	二松学舎大	6
青山学院大	4	環太平洋大	2	日本医科大	1
立教大	9	京都外国語大	1	日本栄養大	2
中央大	4	近畿大	1	日本経済大	1
法政大	25	国際医療福祉大	2	日本工業大	5
学習院大	13	産業能率大	7	日本獣医生命科学大	3
國學院大	8	秀明大	2	日本女子体育大	5
明治学院大	5	淑徳大	7	日本体育大	2
成蹊大	1	城西大	3	日本福祉大	1
成城大	4	城西国際大	6	白鷗大	1
武蔵大	10	湘南工科大	1	文京学院大	4
獨協大	18	尚美学園大	1	別府大	1
日本女子大	3	昭和医科大	2	明海大	8
日本赤十字看護大	1	杉野服飾大	1	明星大	10
東京農業大	8	聖徳大	6	目白大	2
東邦大	21	洗足学園音楽大	5	ヤマザキ動物看護大	2
北里大	3	仙台大	1	山梨学院大	3
順天堂大	11	創価大	1	酪農学園大	1
芝浦工業大	8	崇城大	1	立正大	10
東京電機大	5	大正大	14	流通経済大	4
星薬科大	1	高千穂大	1	麗澤大	29
日本大	49	拓殖大	5	和光大	1
東洋大	40	玉川大	3	和洋女子大	8
駒澤大	19	千葉経済大	1	SBC東京医療大	2

海外大学

延世大	1	ウーロンゴン大	1
ブリティッシュコロンビア大	1	テンブル大	1
シドニー大	1	ロードアイランド大	1
サセックス大	1	マサチューセッツ大ポストン校	1
ノッティンガム大	1	カルフォルニア大アーバイン校	1
ヘルプ大	1	他	13

専門職大学・専門職短大

東京情報デザイン専門職大	3
--------------	---

短期大学

昭和学院短大	3	女子美術大短大部	1
大妻女子大短大部	1	東京歯科大学短大	3

大学校・専門学校

防衛大学校	2	神奈川県立平塚看護大学校	1
東京医療看護専門	1	日本医科大学看護専門	1
水産大学校	1	君津中央病院付属看護専門	1
東京女子医大看護専門	1	松戸市立総合医療センター附属看護専門	1
		他	26

就職

埼玉県警、東京都消防庁

延合格数

四年制大学	876名	海外大学	24名
専門職大学・専門職短大	3名	短期大学	8名
大学校・専門学校	35名	就職(内定者)	2名

合格者の横顔

みなさんおめでとうございます。質問は次の①～⑤です。
①コース・氏名 ②現在までの合格校 ③努力したこと
④平均学習時間(平日・休日) ⑤後輩へのアドバイス



①TAコース 阿部陽太郎さん ②東京大学理科I類、慶應義塾大学理工学部学問B、早稲田大学基幹理工学部学系3 ③受験以外のことは考えないように心がけていました。④平日7時間、休日11時間 ⑤私は特に得意教科があったわけではありませんでした。受験は、試験で合格最低点より高い点数を取った人が合格するという単純なものです。本番のようなセットがきても安定して合格するためには「全科目そこそこできる」ようになることが大切です。オールラウンダーを目指して勉強頑張れ!

①IAコース 篠原 想さん ②ブリティッシュコロンビア大学(カナダ)、サセックス大学(イギリス)、シドニー大学(オーストラリア) ③外部の英語資格試験(自分の場合はIELTS)の勉強と大学や奨学金申請に必要なエッセイなどの書類作成を特に頑張りました。④国内の一般受験で大学受験をする人と比べて圧倒的に勉強時間が減ってしまうのですが、私の場合は平日で平均4～6時間程度、休日でも6～8時間しか勉強していませんでした。⑤家族でも先生でも友達や彼氏、彼女でもいいのでなんでも話せる人を見つけることが大切だと思います。自分も奨学金に不合格になった際に、素直に気持ちを打ち明けられた友達が1人いました。そのような人がいるだけで受験期もいくらか楽になると思います。



①SAコース 砂山未来さん ②東京医療保健大学千葉看護学部看護学科、SBC東京医療大学健康科学部看護学科 ③小論文対策として、過去問やテーマごとの練習を重ね、自分の考えを文章でまとめる力を意識して磨きました。また、課外活動にも積極的に参加し、学校生活以外の経験を通して視野を広げるよう努めました。④平日1～2時間、休日3～4時間 ⑤勉強だけでなく、課外活動や日々の経験も大切にしてください。自分が何を考え、何を学んだかを言葉にできるようにしておく、受験で必ず役に立ちます。



①AAコース 小西亜美花さん ②東京科学大学情報理工学院、上智大学理工学部情報理工学科、芝浦工業大学工学部情報通信工学課程情報工学コース ③計画的に学習を進めることを心がけ、隙間時間も活用しながら継続して勉強に取り組みました。④平日7時間、休日13時間 ⑤成績が伸び悩む時期もありますが、焦らず今できることを着実に積み重ねてください。日々の努力を大切に、最後までやり抜いた努力は必ず自信になります。



①GAコース アシュール莉麻さん ②慶應義塾大学看護医療学部 ③1年生の頃から部活動で時間が無い中、隙間時間を有効活用して小テストや定期テスト勉強に励み、評定を高く取ることを意識していた。受験直前は、面接で対応力も必要だと思い、多くの先生に面接練習をしていただいた。④平日は隙間時間を最大限使って勉強をした。テストが近いときは部活帰りの電車で、家に帰るまでの2時間くらいを使い、また休日は部活以外の時間を計画的に使って学習した。⑤自分が今までやってきたことだけじゃなくて、これからやりたいことを明確にしましょう!早く準備を初めて損は無いです。自分の志望校を早く決定して夢の実現にむけて頑張ってください!

